

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度第2回長岡市水族博物館協議会
2 開催日時	令和6年2月29日（木） 午後3時から午後5時
3 開催場所	長岡市寺泊コミュニティセンター 小会議室
4 出席者名	協議会委員 柳下委員長、金内副委員長、赤川委員、大浦方委員、鹿目委員 品田委員、清水委員、遠山委員、家後委員 委員以外の出席者 竹内教育部長、近藤寺泊支所長 (事務局＝科学博物館) 小熊科学博物館長、神保科学博物館長補佐 青柳寺泊水族博物館長、井村総括主査、矢引主査 田中会計年度任用職員
5 欠席者名	石井委員
6 議題	報告 (1) 令和5年度事業実施計画・状況について (2) 令和6年度事業実施計画（案）について (3) 水族博物館整備事業の計画（概要）について
7 審議結果の概要	(1) 令和5年度事業実施計画・状況について 概要を事務局より報告 (2) 令和6年度事業実施計画（案）について 概要を事務局より説明 (3) 水族博物館整備事業の計画（概要）について 概要を事務局より説明

8 審議の内容	
委員長	<p>(1) 令和5年度事業実施計画・状況について (資料により説明) 主な意見は次のとおり</p> <p>SNSでの投稿について、言葉や表現に気を付けなければいけないというのはどういった部分に感じたのか。</p>
事務局	<p>ペンギンの愛称決定を投稿した翌日の時点では数十万だった表示回数が、翌々日には数百万まで伸び、現在は約750万回を超えている。初めのうちは、多くの人に見てもらって嬉しいという思いだったが、拡散力のすごさを目の当たりにして、投稿する内容や表現には注意が必要だと改めて感じた。</p>
委員	<p>今ほど館内を観覧してきたが、ペンギンの雛の写真、手書きの投票用紙とともに「初めまして、ぼんぼんです」と書かれたポスターが貼ってあった。投票用紙に書かれた子供の字を見てアナログの世界に浸っていたこともあり、SNSで投稿して数日で750万回の閲覧と5万「いいね」が付いたこととのギャップを感じた。SNSによる影響は非常に大きく、利用しない手はないと思うが、もし今回のような愛称募集をSNS上で行ってしまうと、一斉に名前の応募があった場合に集計作業が大変になってしまうので、そういったものはアナログでやっていったほうが良いのかなと思う。</p> <p>学校教員向けの水族館活用講座を開催したということで、非常に良いことだと思う。子供たちが水族館に来た時、水族館のスタッフが時間をかけて説明するには限界がある。普段から子供たちと接している担任の先生方が、水族館の知識を持って説明を加える方が子供たちも関心を持つと思う。以前、上野動物園で似たような講座に参加したが、一般の説明会というよりも、子供たちにこういう視点で伝えてほしいというような講座だった。そういったものをうまく活用して欲しいと思う。</p> <p>ウツボの水槽の前に「探してみよう。ウツボは全部で5匹います。岩の隙間にいるかな？」という手書きの説明があった。私も探してみたが、岩の後ろに隠れていたりしてなかなか5匹全ては見つけれず、気づけば5～10分ほどウツボの水槽を見ていた。何もなければ通り過ぎてしまう水槽でも、このような声かけにより背中を押してあげるこ</p>

<p>委員長</p>	<p>とで、「5匹いるのか。探してみよう」と関心を持ったり、注視することで個体ごとの違いに気づけたりと、観覧者が興味を持ってくれる。ただスタートからゴールまでぐるっと回って終わりではなく、関心を持った展示を時間をかけて見ること、あるいはリピーターになってくれることが期待できると思う。</p> <p>長い目で見た時の変化はこういうところだと思う。今まで我々はそういう努力をやらなかったが、スタッフ自身がどうしたらいいのかを考えて一生懸命になっている姿が垣間見えるようになった。</p>
<p>委員</p>	<p>以前は寺泊支所のバスを利用することで特別支援学級や小規模校がバス代を節約して寺泊水族博物館へ見学に来ることができたが、それがなくなったことによって学校の利用は以前より減っている等の影響はあるのか。</p> <p>また、去年よりも講師派遣が増えているように思う。水族館ではなく水族博物館であることを以前から協調しているが、講師派遣や出前授業等、そういった部分が以前より浸透してきているのではないかと思う。依頼の種類が増えた等あれば教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>講師派遣について、昨年度から地元の方と小学校がその地域の水田周辺の生物調査を行っている。約1時間ほど生物を採集し、水族博物館職員が解説を行った。子供たちに自分の住んでいる地域にはどんな生き物がいるのか興味を持ってもらえるような、また、大人になっても覚えていられるような体験は素晴らしいことだと思引き受けている。</p> <p>また水辺体験では、前回の協議会でもお話した「てらどまり若者会議～波音～」の方々が一生懸命実施している。その中で、磯焼けの防止や浅瀬にあるアマモの増殖といったものに環境政策課が興味を持っており、寺泊水族博物館を含めて、寺泊で何かできることはないか、例えば夏にできたアマモの種を採取し、種苗として育てて移植するなど、具体的などころまで話が進んでいくと良いと思っているが、それを実行、継続するためには人手がないとなかなか難しいところがある。しかし、そういったことに関心を持ち、寺泊にはこういう自然があるということを広く紹介していくことも大事だと思っており、ペンギンプールの近くにアマモの水槽を設置している。</p> <p>団体観覧者については、規模の大きい小学校に大きな変化はないが、</p>

委員	<p>小規模な学校は若干減少している。</p> <p>教員向けの講座に当校から職員が参加した。寺泊水族博物館とトキと自然の学習館両方に行かせてもらった際に水族博物館長やトキと自然の学習館の獣医にインタビューを行い、学習に活かさせてもらった。このように授業に活用できることを教員向けにPRすることによって多くの学校が興味を持ち、寺泊水族博物館に足を運ぶことも増えると考えられるので、とても良い取り組みだと思う。</p>
委員	<p>アマモの水槽はどこにあるのか。</p>
事務局	<p>ペンギン広場に設置している。昨年8月の水生生物探索会で採取したアマモを寺泊水族博物館の水槽に移植した。アマモを展示しているほかの水族館では、強い光量で生育してもなかなか上手いかず、定期的に植え直す手間が生じているようだが、寺泊水族博物館では半屋外で自然光とLED照明で生育しており、現在もしっかりと根を張っている。寺泊の海を紹介するための要素としては地味ではあるが必要なことと考えている。</p>
委員	<p>魚の市場通りは新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置付けが5類に引き下げとなった影響もあったのか、令和5年度は前年比130%超えの入込状況だった。海水浴客の入込数も例年の約120%程度あった。寺泊水族博物館長をはじめとした職員がいろいろなアイデアを出し、工夫し、館内の表記方法や展示方法などから努力していることが伝わってきて勉強になる。</p> <p>アマモについて、寺泊漁協や釣り船の方からは魚の種類、獲れ方が以前と変わった、全然獲れない、海が変わったと聞く。アマモについてはよく知らないが、海にとっては良いものなのか。</p>
事務局	<p>魚にとっても地球環境にとっても良いものである。</p>
委員	<p>地元の間人である私もアマモについて詳しく知らなかった。水族館からアマモについての生態などを外部に発信する機会を増やしてもらうことで、海水浴客や観光協会、地元の方も含めて大切な海を守るということに協力していけたら良いと思う。関係団体でもそういった情報の共有を行い、浜の町寺泊として、海を守る活動を進めていけたら</p>

<p>委員長</p>	<p>と思う。</p> <p>初めの頃、この協議会では水族館を観光に活かしたい、観光客を呼びたいという話を中心だったが、協議会を続けていく中で、子供のためになる水族館にしたいという話が定着した。減免により市内小学校が無料で観覧できるようにしたり、先生方から協力を得たりすることで、次の時代を見据えた水族館、子供が来て楽しい水族館、という方向で、委員の方々の意見も定着してきたように思う。</p>
<p>委員</p>	<p>以前、特別支援学級の担任をやっていた時に、寺泊支所のバスで水族博物館に来れたのは、子供たちにとってすごく良い経験だった。学年全体で動くのが得意じゃない子供が、特別支援学級だけの10～15人程度で行動し、その中でバックヤード見学をさせてもらったこともあった。しかし、少ない人数ではバスをレンタルする際に一人当たりの負担が大きく、路線バスでは長岡から1時間以上かかるという大きな問題がある。難しい要望だと思うが、小規模校の子供たちでもバス代をかけずに寺泊水族博物館を訪れられるような、以前あった事業が復活できると良いなと思う。学年で1回、特別支援学級で1回、その後は家族でといったように、寺泊水族博物館に多く来てもらえるということもあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>能登半島地震による休館の後、翌週に寺泊水族博物館を訪れてみたが、人はいないだろうと思っていたが、多くの家族連れが餌付けショーを見ていた。</p> <p>寺泊水族博物館を訪れる度に思うが、階段の途中にも水槽があったりするギミックが気に入っている。広い水族館では観覧しているうちに水槽がただの景色になってしまい、飽きてしまうことが多い。寺泊水族博物館は上階に向かう途中に水槽があったり、展望フロアからは四季によって違う海の景色を見ることができるところが好きである。先日行った時、展望フロアに家族がおり、休憩している両親に子供が「僕のおすすめ」と言っていたのが印象に残っている。こういった来るとほっとする空間がなるべく長く残ると良いと思っている。大人になって自分の子供と一緒に自分の子供の頃のままの水族館に来るというのも良いんじゃないかと思う。こういった場所になれる寺泊水族博物館は末永く残って欲しい。</p>

委員	<p>(2) 令和6年度事業実施計画(案)について (資料により説明) 主な意見は次のとおり。</p> <p>ダイバーの餌付けショーについて、「観覧者の反応を見ながらショーの内容が魅力的になるよう努める」とあるが、先日の餌付けショーではダイバーが小さい子供に手を振り、小さい子供たちが答えて手を振っていた。それを見ていて感動した。見せる側と見に行った子供たちのこういう場면을大事にしてもらいたい。</p>
委員	<p>先ほど変わらないものも良いという話があったが、全くその通りだと思う。私も独身の頃、結婚してからと来て、今度は孫と寺泊水族博物館に行きたいと思っている。本音を言えば、孫と来るまでは今のままの寺泊水族博物館が良い。自分が行ったところに連れていきたいと思っている。展望フロアから景色を見ると子供と一緒に来たときを思い出したり、ほっとしたりする。思い出の場所として変わらない良さというものもあるのかなと思う。</p> <p>先ほどの生物にちなんだ学習の話だが、やはり海があるというのは素晴らしいことだと思う。長岡地域で生物の授業をやるとなると、実際に訪れられるのは近くの神社くらいしかなく、命の勉強としてはさみしい授業だと思う。しかし、海があれば、地元の魚が泳いでいるものが実際に見られたり、命に触れる機会が多くあるため、うらやましく思う。</p>
委員	<p>先ほど子供が楽しめる水族館という話があったが、子供が「見に行く」のではなく「参加できる」という形が大事かなと思う。ペンギンの赤ちゃんの愛称募集では、来館した人だけでなく、来館しなくても投票できると良いなと思った。現在、子供たちは全員タブレットを持っており、電源を入れると「こめぷら」というページが開く。そういったところでペンギンの赤ちゃん愛称募集を掲載し、投票できるようにすると、長岡市内の子供たちが参加でき、今どうなっているか興味を持って見てくれると思う。SNS等を活用して寺泊水族博物館に行かなくても参加できるイベントを行い、そこからまた行きたいなと思ってもらうようにするのも良いのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>「こめぷら」について、掲載の話はいただいていたが、そこまで手</p>

委員	<p>が回らなかった。</p> <p>獲れる魚がどんどん変わってきているという話が出たが、例えば昨年 の暮れの海水温は例年と比べ2～3度ほど水温が高かったため、鮭 が全然獲れないということがあった。柏崎刈羽原発隣にある海洋生物 研究所では、以前寺泊で多く取れてた魚を養殖、販売している。そう いったことから過去の寺泊の海を再現するなど、海の状況についてよ り理解を深められる展示も良いと思っている。</p> <p>先の話になるかもしれないが、「こめぷら」に寺泊の生物デジタル図 鑑や、漂着ごみの写真を掲載してもらおうと、「こめぷら」で調べ学習の 時に活用できて面白いのではないかと思う。そういった学習に使える画 像素材はたくさんあるのか。</p>
事務局	<p>ある。前回の協議会で話が出た「てらどまり若者会議～波音～」が 制作した下敷きの魚の画像は寺泊水族博物館から提供したのも多く ある。寺泊水族博物館でも、簡単な寺泊地域の魚の図鑑を作ったら良 いのではないかという意見があり、制作を進めてみたがなかなかうまく いっていないのが現状である。しかし、それを完成させて「こめぷら」 に掲載できれば、気軽に見ることができて素晴らしいと思う。</p> <p>(3) 水族博物館整備事業の計画 (概要) について (資料により説明) 主な意見は次のとおり。</p>
委員	<p>10年間協議委員をさせてもらっていて、建て替えの必要性は協議会 の度に強調していたが、大河津分水という国の大きな建設工事、その 大きな流れの中で、長岡市が寺泊水族博物館だけ別にして検討するこ とは難しいということは非常に感じている。その流れを見ながら考え ていかななくてはいけないということは、この10年でよく理解した。</p> <p>水族館は必ず建て替えなければならないと常々強調してきたことと 矛盾するが、変わらない良さ、懐かしい水族館というものの良さは十 分あると思う。極端なことを言えば、現在、築40年の寺泊水族博物館 を100年保てたら文化財になる。日本で一番古い水族館という形で、寺 泊に行けば古い水族館が見られる、あれが昔の水族館だ、という観光 名所になるかもしれない。新しいものが必ずしも良いということはなく、 古いものにこうやっているんな立場の方が意見を出し合い、少し</p>

	<p>ずつ地道に変わってきたというのがこの10年の流れだと思う。</p> <p>委員長もこれまで言ってきたが、海の上に水族館があって、港があって、魚の市場がある海の町寺泊という環境、立地そのものが素晴らしい。海に建ったこの水族館、それを寺泊、長岡市として大切に維持をしていかなくてはいけないと思っている。先ほどの観光的な資源という意味や、教育的な意義、寺泊の魚がだんだん獲れなくなったというテーマで、新しい企画を考えたり等、様々なアプローチの仕方があると思うので、これからも微力ながら協力していきたいと思う。ほかの協議委員からの意見も非常に参考になっている。修繕の方は地道な作業ではあるが、これからも続けていってほしい。</p>
委員	<p>水族館の命というのは、中で展示している生き物がいきいきしていること。寺泊水族博物館に来る度に思うが、魚が元気で水槽が綺麗である。これはどのような努力をしているのかと疑問に思っていたが、修繕計画を見るとしっかりとメンテナンスを行うことで成り立っていることが分かる。魚を飼っていた経験があるので、水質や水温の管理が大変なことは知っている。1週間構わないだけでも水槽は藻だらけになってしまう。ろ過装置を入れてもそんな簡単にろ過できるものではない。魚は生物だから、必ず水は汚れる。寺泊水族博物館は汲み上げた海水を循環させてそれを捨てる方式なのか。</p>
事務局	<p>基本的には循環ろ過を行っている。しかし、それだけだとやはり水槽の水に色がついたりすることがあるので、定期的に海水と入れ換えている。基本的には10日～2週間で水槽の3分の1程度の水を新しい水に換えている。大水槽に関しては循環ろ過と併せて常時海水を注水しており、それによって10日くらいで水が入れ換わる。</p>
委員	<p>それは寺泊水族博物館の規模がちょうど良くてうまくいっているのか、職員の努力によって労力をかけて行っているのか。</p>
事務局	<p>非常に労力がかかっている。展示水槽が80本あり、10日～2週間でそれぞれの水槽の掃除をして水換えを行うとなると、飼育担当職員は1日何本かは必ず水槽の掃除や水換え等の整備をしなければならない。一つの水槽を整備するには40分～1時間くらいかかるため、業務の中で最も手間のかかる仕事になる。これを毎日繰り返しながら維持管理している。</p>

委員	<p>次の日に備えるということで閉館時間を繰り上げたと聞いているが、今の話を伺って納得した。寺泊水族博物館は、展示されている魚の元気が良く水槽が綺麗であることが売りだと思う。やらなければいけない業務だとわかっているが、大変な労力あつてのことであり、修繕計画にあるものは絶対外さないでもらいたい。</p>
事務局	<p>観覧者からお金を頂いている以上は、やはり綺麗な水槽を目指しているが、築40年ともなると、あちこち汚いところが目についてしまう。その都度どうするか検討し、場合によっては修繕費用節約のため自分たちでペンキを塗ったりもしている。そういった部分は常々考えながら、古いからといって観覧者が不快な思いをすることないように、少しでも楽しんで観覧してもらうことを目標にしてる。職員一人ひとりには、その点を意識して職務に取り組んでもらいたいと思っている。</p>
委員長	<p>職員が日々苦勞していることがよく分かった。「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」という事業名はとても良いと思う。その言葉の通り、寺泊水族博物館の職員だけでなく、我々委員も協力していきたいと思っている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>9 会議資料 別添のとおり</p>	